

即時に解決しなければいけないことは、以下の組織の概要にそって決められる。  
(Organizational Description That Guides Interim Choices)

組織の一般の目的:

- 主として、経済・階級と政治、文化・人種、家族・ジェンダー、環境、国際関係を等しく重要とみなす。
- 資本主義と人種差別、男女差別、20世紀の市場主義と中央集権計画的社会主義のような権威主義を乗り越える道を探る。
- 現在の活動の方向性を決め、促すのに足る長期的なビジョン(展望)を柔軟に探り、推奨する。
- 運動する人々の必要性や知識を無視したような細かい青写真を作らない。
- 運動のプログラム(計画)は時と場所に合ったものにしなければならず、新しい情報やアイデアが加われば、それにともなって運動成果の分析や、展望や戦略を作り変え続けることとする。

実施したいと強く願うものは以下のものである

政治・政府

新しい種類の政府あるいは政治組織を考える。新しくなった政府が行うべきことは以下のとおり:

- 政策決定にすべての人々が全ての市民が参加し、充分議論が尽くせるよう促す。
- 政策決定の実施と評価がはっきりとわかるようなメカニズムを作る。
- 市民に影響を与える、法律について何か決まる時は、政府はその決心過程に市民に参加させる。
- 草の根(市民)団体、協議会、コミュニケーションを使って物事を決めるが、その時に、直接参加か代表派遣団か、過半数の投票などか、コンセンサスの形で決める。コミュニティと個人が自分で自分のことをマネージ出来るように、一番適切な方法で物事が決められる。
- 表現の自由や出版社の自由、宗教の自由、集合の権利と自由、政党を作る権利、そういう自由と権利はもっとも拡大されている状態を守る。
- 異議を許すだけではなくて、異議を容易にしたり促進したりする。
- 個人や団体が自分のゴールを達成出来ても、他人他団体のしたいことを妨げないように、多様性を促進する。
- 喧嘩が生じたり、誰かがしてはいけないことをしたり法律を破ったりした場合は、なるべく正義になって関係者が名誉回復と復活が出来るように、公平で平和的で建設的に問題を解決する。
- AさんよりBさんの方が特権を持っているような政治的階級組織は無いようにする。そのためには、政府は全てのコミュニティのメンバーが問題の解決に貢献したり考えたり出来るようにする。

経済

IOPSは次のような新しい経済システムを求める:

- 資源や工場などは個人あるいは集団が所有しない。物を持っていることが、配当(distribution)や、何らかの決定の前提にならないようにする。ものを持つ、持たないにかかわらず、政策決定が公平に出来るような経済のシステム。
- たくさん働いた労働者、危険、汚い、きつい(3K)の仕事、誰もしたくない仕事をしている人々には、たくさんのお金を渡す。財産や権威や個人的なコネがお金を稼ぐようにしない。
- とはいえ働けない人は、働けなくても収入を得ることが出来る。
- 労働者に影響を与えることが決心された場合は、その決心されたことから影響を受ける労働者は、決心のプロセスに参加する権利がある。決心されることがその人に大きな影響を与える場合は、大きく参加出来る、小さい影響の場合は、少し参加出来る。
- 全ての働く人は、決心のプロセスに参加出来るための条件が与えられている。充分な情報を受けて、その人が十分な自信があるような条件である。例えば、自分の将来の力になるになる仕事も、他の働く人と同じくらいさせてもらえ、とにかく、大企業みたいに5

分の1の人が力になる仕事をしていて5分の4の人がつまらなくて、ロボットみたいに、言う通りにするような仕事をしている、そのような仕事の配分はない。

● 仕事の割り当てについては、非中央化の、協力的な交渉で仕事は割り当てられる。労働者の協議会で仕事の割り当てが決められても、消費者の協議会で決められても、他の公平な方法で決められてもそうである。必ず、市場の競争やトップダウンの計画で決められません。

新しい家族・ジェンダーのシステムでは：

- ある一つの家族のカタチを正しいといわない。社会に悪影響を与えなければ、どんな家族のあり方でも良い。
- 子供の健康を大切にする。社会全体がその全ての子供に対する責任がある。「普通」の家族(お父さんとお母さんがいて、娘、息子がいる)だけではなくて、同性愛などの家族を作る権利を認める。そのような家族にも、子供が愛を与えられ、安心と自信をもっている子供を育てる環境を作る。
- 新しいジェンダーと親類のシステムは、歳による許可をなるべく減らしたり、無くしたりする。1人の人間が経済的、政治的な活動に参加するのに、歳を取りすぎているとか、若すぎると決めるのは、なるべく一方的でない方法で決められる。
- 新しいジェンダーと親類のシステムは、宗教的、文化的、社会的なためしとしては、結婚と他の永続的な関係を認めるが、財政的利益のための結婚と社会的なステータスを上げるための結婚は、認めない。
- 年寄り、身体が不自由な人のお世話するのは、価値のある仕事として尊重しているので、全ての市民の責任にし、みんなお世話する義務とお世話してもらう権利がある。
- 性的な快樂と個人的なアイデンティティと親しみを楽しむ、多用的な表現を認めながら、一人一人が他人の自立と人間性と権利を尊重するようにする。
- 性教育をする。その性教育は、多様な文化、生活をしている人々にふさわしくて、一人一人の子供・人の力になるようなものにする。合意の上でない性的な行為は、不法で犯罪と見なされる。

新しい文化やコミュニティーでは

- 一人ひとりがアイデンティティを肯定的に表現する場所や情報を提供し、個人個人が時に応じて、どのアイデンティティが重要であるかを選ぶことができるたくさんの文化的アイデンティティ、社会的なアイデンティティを持つことを認める。
- 文化的アイデンティティのいかに問わず、様々な権利や価値観が存在することは明らかである。全ての人には、自分の人生を決めることが出来、平等な権利をもち、自由である。社会は、自由に仲間を作る権利を保護し、多様性を促進する。基本的な価値観(=権利)は普遍的である。
- 新しいコミュニティーシステムは、全ての人が社会の全ての文化的なコミュニティーに自由に出入り出来ることを保証する。そういった自由に出入り出来るコミュニティーの政策と行動は、社会の法律を破らない限り、コミュニティーは自己決定権が認められる。

われわれの組織は、国際性と同時に地域性を求める：

- 植民地主義、新植民地主義、新自由主義といった、あらゆるタイプの帝国主義をやめさせる。
- 国内の経済的な貧富の差を縮める。
- 国内の社会文化的な慣習が外から攻撃されたり変えられたりしないようにする。
- 大企業をグローバル化させる代わりに、一般の人々の希望に合わせて国と国とのレベルでのグローバル化を進める。

次の新しい環境の関係を求める：

- 未来の社会の人々が短時間と長時間の経済的社会的な政策についてうまく決められるように、環境に関する費用と利益について深く考えられるようにする。未来の人々が算

出消費の量や仕事の量、独立独行、エネルギーの算出消費、畜産、公害、気候に関する政策、資源の保護などについて、自由にみんなで決めたことの中で、問題をちゃんと理解して色々決められるようにする。

● 未来の市民が、環境の持続可能性(sustainability)と畜産以外の問題、例えば動物の権利、菜食主義などについて上手く政策を決められるように、環境を大切にしようという意識を高める。そういった意識を高める時に、その意識が市民の環境に関する希望と、社会経済的な問題の協議事項(agenda)に一貫しているようにする。

#### 総合的な目的、プログラム

総合的な目的とプログラムは、定期的に更新されるにかかわらず、

- 現在の活動は現在の生活をよくし、未来の生活にも良い影響を与えるように、階級、ジェンダー、権力関係などに関するプロジェクトを進める。
- この運動で、助けてもらった人が出てくるが、そういった人々のコミュニティーの中で、運動のメンバーが増えるようにする。その助けられる階級、国、ジェンダーのメンバーを増やす。
- プログラムは運動家たちだけではなく、それ以外の人の意識を変え、また逆に彼らから学ぶ。運動を強めるために、若いメンバーを増やし、彼らにスキルを与えたり彼らを育てたりする。
- 現在の市民の生活をよくし、未来にも市民の生活がもっとよくなるように働きかけ、運動の成功をはかる。
- それぞれの国の人々は、助け合い、お互いの国に材料を与えたり、自分の国で習ったことを他の国の人に伝えたりできるようにする。
- 世界か国か地方のIOPSのメンバーの中で決めることによって、行動やプログラムと大きな運動と大きなプロジェクトで短期間の社会の変化を求める。これはメンバーの決めたことによって例えば、温暖化や軍備管理、戦争平和、経済的な生産、農業産業関係、教育、健康産業、給料分配、仕事の期間、それぞれのジェンダーの役割、それぞれの人種のお互いの関係、マスメディア、法律、立法も含まれる可能性がある。
- メンバーがIOPSの運動に好きな程度で参加し、革新的な行動に参加することに伴うチャレンジや苦勞を乗り越えられるために、財政、法律、勤務、精神的な面の上でIOPSはメンバーにサポートして上げる。
- メンバーの自尊心、知識、スキル、身体と心の健康を向上させ、メンバーの生活の状況をいつも改善してゆく。
- メンバーの間でも、メンバー以外の社会でも、本当のことを伝えるニュースや、分析、構想(=ビジョン)、とるべき方法(=ストラテジー)を広く知らせて、みんなで議論する。個人と個人とをつなぐメディアの発達を図る。
- 我々が勝ったり、運動が大きくなったりするために、教育的な活動、大会、行進、デモ、ボイコット、ストライキ、直接行動をする。
- 社会の改善に絶対につながると思われる十分な根拠がなければ、暴力は禁止する。なるべく非暴力な態度と心を育てる(メンバーの間で)。
- 選挙への参加はケースバイケースで考える。投票に当たっては慎重な態度をとる。

組織の構造とその行動は、常に改新されるにかかわらず、

- われわれの組織内では階級を作らず、自分で決めることにする。十分な訓練を受けていない少数者は、情報、自尊心の面でもはじめから不平等の状態に置かれているが、決定においてはけっして下におかれることなく、また、十分な訓練を受けた人の命令だけを聞くようにしないこと。
- 「関わりのあることについて、メンバー(=IOPSのために働いている人)は、重大な決定する時に、参加できる」という自己管理のルールを実施できるようにする。
- メンバーは自由に自分の考えを他のメンバーに伝えてもいい。
- 組織内の議論や論争を推奨する。みんなで話し合う自由を認める。
- 多様性を大切にする。そうすれば、国家、地方、市などそれぞれは、相互の妨げとならなければ、自分の状況や問題に反応できるようにする。
- 組織全体のことをみんなで決めることが出来るよう、政策決定に参加する機会は多くメンバーに与えられる。

- 特別な理由がなければ、組織の中で(メンバーの間での)秘密の保持は認められない。お互いに何をしているかお互いに伝えなければいけない。
- メンバーの意思にそむく行動をされると考えられるリーダーや代表を罷免するシステムを作る。
- グループ内で論争が起こった場合は、公平、かつ平和的で進歩的に解決出来るようなメカニズムを作る。
- 限られている人数、少数のグループなど、だれもが情報を独占できないために、仕事を公平に配る。
- メンバーは積極的に参加しなければいけない。組織に責任を持ち、組織が何か行動する時にみんなと団結しなければいけない。一緒に闘わなければいけない。
- メンバー一人一人が議論の場に参加できるようにし、メンバーが参加しないことを大きな問題として扱う。
- なるべくみんな参加出来るように、別のメンバーの子守をしたり、家族のサービスで忙しい人を助けたり、複数の仕事を持っている人を助けたりする。
- 組織内男女差別や人種差別、階級差別、同性愛の人に対するの差別があるかどうか、メンバーで考え、もし差別があると判断された場合は、すぐにその差別を止めるようにする。例えば、一緒に働けないと考える二人がいれば、その二人には別々の仕事をしてもらおう。(なるべく差別の無い「職場」を作る。)